

第 2 部 基本構想

第2部 基本構想

1. まちの将来像と7つのまちづくりの目標（めざすまちの姿）

(1) まちの将来像

「臼杵市まちづくり基本条例」におけるまちづくりの基本理念は「市民が主役のまちづくり」です。

この基本理念のめざす姿は、市民が主体的に責任をもって、自らの将来像に向かって行動することを基本に、市民や議会・行政の責務や役割を明らかにしたうえで、お互いを尊重して協働でまちづくりを進め、あらゆる市民が充実した生活を送る、臼杵らしいまちづくりにつながっていくことです。

臼杵市は、豊かな自然、文化や歴史の息づく情緒豊かなふるさとです。新鮮で安全な食を楽しむことも、海や野山などの自然とふれ合うことも、温かい市民の心と接することもできます。このような日常のありふれた生活の中に、幸せを実感できる「ふるさと臼杵」に磨きをかけ、市民が「住みたい」「住み続けたい」「働きたい」と思える、市民の幸せ度日本一のまちをめざします。

住民だけではなく、通勤・通学している人や事業者・地域活動団体なども、臼杵に愛着を持ち、臼杵のまちづくりに参画してもらうことで、笑顔あふれるまちづくりを目標としています。

その基本理念を念頭において、まちの将来像を設定しました。

まちの将来像

『 日本の心が息づくまち臼杵 ～「おだやかさ」と「たくましさ」を未来へつなぐ～ 』

この将来像が示すまちの姿は、新市建設計画や第1次臼杵市総合計画がめざした「昔から日本にありながら現在の日本では忘れられつつある、失ってはならない『大切なもの』すなわち『ふるさと臼杵の心』」を育て、未来へつないでいくまちです。少子高齢化と人口減少に伴い、これまでとは大きく社会状況が変わっていること、地震や津波による災害が想定される土地柄であることを考えると、人々やまちが有する「おだやかさ」に加え、何事にも立ち向かっていく力、乗り越えていく「たくましさ」も兼ね備えたまちでありたいという想いを込めています。具体的には以下に示す4つです。

① 自助	自らのことは自らで守り、自分を磨くことで、心も体も元気でいきいきと暮らせるふるさとをめざします。
② 共助・公助	お互いさまの気持ちを持って地域ぐるみで助け合い、必要な行政支援によって、地域力を育み、未来へつなぐふるさとをめざします。
③ 継承	恵まれた豊かな自然と歴史や文化を受け継ぎ、大切に残し、活かし、夢や希望を持った将来を担う子どもたちへふるさとをつなぐことをめざします。
④ 郷土愛・誇り	昔ながらのふるさとの姿を残しているこのまちに感謝し、誇りを持ち、受け継がれてきた心を市民力と地域力で磨き、「ふるさとの心」が息づいたまちを未来へつなぎます。

この将来像を実現するための計画を「第2次臼杵市総合計画」と位置づけます。本計画は、臼杵らしさを出しつつ、臼杵市の施策や事業内容の方向性を決定する際の指針とします。

(2) 7つのまちづくりの目標（めざすまちの姿）

まちの将来像を実現するために、

「生活の土台を築き、笑顔あふれる市民が暮らすまち（健康福祉）」

「地域の輪で心がかよい、市民が集うまち（地域の絆）」

「自助・共助の精神を持った市民が暮らす、災害に強いまち（防災）」

「魅力ある資源を市民が創り活かし、人が集まりにぎわうまち（産業・観光）」

「磨き輝き続ける市民がつながり、臼杵っこが育つまち（学び）」

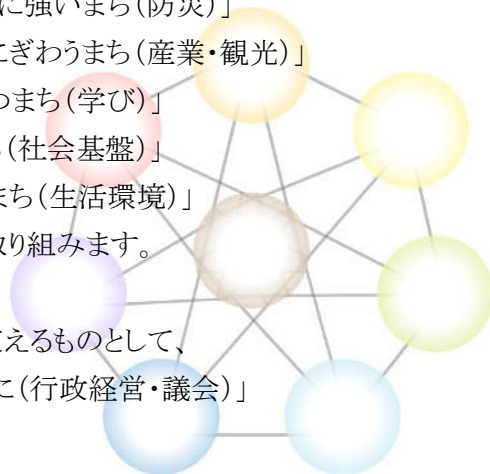
「社会基盤が整い、行動力ある市民が暮らすまち（社会基盤）」

「豊かな自然環境で市民が潤い、活力あふれるまち（生活環境）」

の7つのまちづくりの目標（めざすまちの姿）を掲げて取り組みます。

7つのまちづくりの目標（めざすまちの姿）の実現を支えるものとして、

「臼杵市らしい自立したまちを協働でつくるために（行政経営・議会）」
にも取り組みます。



生活の土台を築き、笑顔あふれる市民が暮らすまち（健康福祉）

健康づくりや疾病予防の知識、行動が身についた生活をしています。若い世代は、安心して子どもを産み育てることができ、子どもたちは臼杵の宝として、地域で見守られながら、元気で活発な子に育てられています。

市民一人ひとりが食生活や運動など健康に配慮し、地域では健康や福祉について相談できる場や人が充実しています。家庭でも地域でも笑顔で体を動かすことで、いきいき長寿を実践し、生涯現役の生活を送っています。障がいの有無に関わらず、手を取り合い、助け合うことで地域のつながりがより一層深まり、ふるさと臼杵に愛着を持って生活し続けています。



地域の輪で心がかよい、市民が集うまち（地域の絆）

臼杵の魅力を再認識し、地域の連帯感が強まり、歴史と文化に恵まれたまちへの愛着心・愛郷心が育まれています。豊かで活力のある地域社会の中で、協働でまちづくりに取り組む意識が行動に移され、市民・事業所・行政が一体となって定住しやすい環境を整えるとともに、移住の受入れ体制も充実しています。複雑かつ多様化してきた地域ごとの課題に対しても、地域で解決に向かって取り組み、地域の絆と市民力（自助・共助）が高まっています。

美しい「海」と「山」との融合により、グリーンツーリズム及びブルーツーリズムが一体化し、地域の絆はさらに深まり、そこに市外からの刺激が加わることで、市全体の地域力が向上し、市としての一体感がより一層醸成されています。



自助・共助の精神を持った市民が暮らす、災害に強いまち(防災)

市民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という自助の精神のもと、家族や職場で防災のことを話し合い、避難経路と避難場所を認識し、常日頃から災害への備えができています。地域コミュニティによって日頃から人々がつながり、非常時にも互いに助け合う環境ができています。自主防災組織で、定期的に行われる避難訓練へ積極的に参加するなど、防災に対する正しい知識と行動が身についています。避難困難者の把握及び災害時の対応策が立てられるなど「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助の精神が醸成されています。

このように「自助・共助」の精神が根付くとともに、「公助」として、災害に強い公共施設づくりが進められ、避難場所や備蓄品も充実し、市民の安心感につながっています。災害が起こる前から復興支援の準備体制が整い、災害発生後の初期段階の対応から迅速かつ円滑な活動が可能な防災体制が充実しています。これらにより、想定される南海トラフ巨大地震などの災害にも強いまちになっています。



魅力ある資源を市民が創り活かし、人が集まりにぎわうまち(産業・観光)

豊かな自然環境に恵まれ、先人より受け継がれてきた国宝臼杵石仏や古い町並みなど、文化と歴史に育まれ、情緒豊かなまちの風情を醸し出しています。

その中で、臼杵人の気質が伝承されており、臼杵を訪れる方へのおもてなしの想いが言動に表れ広がり、来訪者が安心してゆったりとした“とき”を楽しめるまちになっています。魅力あるふるさとの心が息づく臼杵の情報が、国内外に広く発信され、交流人口が増えるなど、臼杵らしさに磨きがかかり、にぎわっています。

農林水産業や商工業など特産品開発や6次産業化も進み、すべての産業が活気にあふれています。地場産業の活性化により、雇用が確保され、いきいきと働くことができ、潤いのある市民生活が営まれています。

※6次産業・・・農林水産業(第1次産業)が、農林水産物の生産のみならず、それを原材料として食品加工(第2次産業)、流通、販売(第3次産業)にも農業者が主体的かつ総合的に関わり、農業を活性化させようとすることで、第1次産業の1と第2次産業の2、第3次産業の3を足して6になることから。



磨き輝き続ける市民がつながり、臼杵っこが育つまち(学び)

生涯にわたり、市民一人ひとりが向上心や好奇心を持ち、人と人との交流を保つために必要な知恵や行動力、人としての温もりが身についています。生きるために大切な「豊かな心」「健やかな身体」「確かな学力」を育むバランスのとれた教育が、子どもたちの中でしっかりと根付き、生涯を通じて学び続けることができる環境にも恵まれています。地域の拠点施設に集い、高齢者が子どもや若い世代に歴史や文化・技術などを伝えることで、地域の力やふれあいが大切にされ、伝統文化も継承されています。

老若男女がお互いを認め合う人間関係を築き、自分らしく生きることができる安心感のあるまちになっています。人の優しさ・思いやりと同時に歴史や文化・伝統にふれ、臼杵のまちの心を次の世代に引き継ぎ、臼杵が大好きな「臼杵っこ」が育っています。 ※「臼杵っこ」とは臼杵人を示す。



社会基盤が整い、行動力ある市民が暮らすまち(社会基盤)

市内のあらゆる場所から人・物・情報が循環し、地域の特性に応じて道路や上下水道などが整備されています。計画的な景観保全や住居対策により住環境が向上しています。情報通信サービスの高度化により情報の受発信が容易な情報基盤が確立され、市民生活の利便性が高まり、生活の幅が広がり豊かに暮らしています。

交通基盤は陸路だけでなく海路でも整備が進み、近隣市との交流が促進され、活気ある住みやすいまちになっています。これら利便性が高まることで、企業立地を促すための基盤整備も進み、社会経済を潤すことにつながっています。



豊かな自然環境で市民が潤い、活力あふれるまち(生活環境)

市民一人ひとりが消費生活の知恵を身につけ、犯罪や事故に巻き込まれない安心安全な生活環境が整っています。環境に対する教育や啓発も施され、環境美化や環境保全活動を行っています。これらとともに、山林や水田の維持と海の持つ浄化作用によって、豊かな自然の機能を維持していくことにつながっています。

市民・事業所・行政が一体となって、景観に配慮しつつ資源やエネルギーを効率的・効果的に利用し、地球環境に負荷の少ない経済活動や市民活動を行っています。

市民それぞれが知恵を出し合って直面する困難を乗り越え、豊かな自然環境を守り、安心して生活できる環境が整うことで、心が潤いのびのびと活動できるまちになっています。

(3) 計画の推進に向けて



臼杵市らしい自立したまちを協働でつくるために(行政経営・議会)

地方公共団体を取り巻く環境が日々刻々と変化していく中で、第2次臼杵市総合計画で描く将来像を実現するため、市民のめざす7つのまちの姿の実現に向け、市民と行政と議会が協働でまちづくりに取り組んでいます。

行政は、今後も引き続き、臼杵市の財源や資源、人材を有機的に結びつけ、計画的に事業を進める行政経営システムの向上を図り、円滑に稼働させています。

議会は、市民と広く情報を共有しながら、市民の意見を積極的に聴くとともに、対話により市民力を向上させることで、開かれた市政を推進し、幅広い分野で市民と行政との協働のまちづくりをめざしています。